

教科（地理歴史） 科目（ 地理 B ） 学年（ 3 ） 単位数（ 4 ）

類型（ 理 ）

履修規定（ 選択 ）

学習の目標		使用する主な教材					
現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。		・教科書 帝国書院『新詳地理B』 ・地図帳 帝国書院『新詳高等地図』 ・資料集 帝国書院『新編地理資料2020』					
期	月	学 習 内 容	学 習 の 具 体 的 内 容 と ね ら い	主な評価の観点			
				①	②	③	④
一 学 期	4	2章 資源と産業	世界を結ぶ交通・通信について、交通や通信の発達による一体化と地域差を考察する。 現代世界の貿易と経済圏について、世界貿易や経済圏の現状と課題や、世界のなかでの日本の貿易や経済の現状と課題を考察する。	○			◎
		8節 世界を結ぶ交通・通信		○			◎
		9節 現代世界の貿易と経済圏					
	5	3章 人口、村落・都市	世界の人口について、世界人口の分布の特色や動態、人口構成や人口転換を考察する。 人口問題について、世界の人口問題を大観し、発展途上国、先進国、日本の人口問題の事例を考察する。	◎	○		
		1節 世界の人口					
		2節 人口問題			○		◎
	6	3節 村落と都市	村落と都市について、村落・都市の立地や発達・機能や、日本の都市の特徴を考察する。 都市・居住問題について、世界の都市・居住問題を大観し、その要因と発生のしくみを、発展途上国、先進国、日本の事例で考察するとともに、都市・居住問題の解決には何が必要かを考察する。		○		◎
		4節 都市・居住問題			○		◎
		4章 生活文化、民族・宗教					
	7	1節 生活文化	生活文化について、衣食住を取りあげ、それらの分布や地域的差異と世界的な画一化について考察する。 民族と宗教について、民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活との関わりについて考察する。	◎			○
		2節 民族と宗教			○		◎
二 学 期	8	3節 現代世界の国家	現代世界の国家について、国境と領域のきまりやさまざまな国家の分類について考察する。 民族・領土問題について、現代世界の民族・領土問題を大観し、日本の民族や領土、世界各地の民族の共生についての課題を考察する。	○			◎
		4節 民族・領土問題					
		1章 現代世界の地域区分					
	9	1節 地域区分とは何か	地域区分とは何かについて、地域概念や地域区分の目的、意義を理解し、有用性に気づく。 地域区分のさまざまなスケールについて、大地域と小地域のスケールによる違いを理解し、有用性に気づく。	◎			○
		2節 地域区分のさまざまなスケール			○	◎	
		2章 現代世界の諸地域					
	10	1節 地誌の考察方法	地誌の考察方法について、地誌的に考察する方法として、多様な事象を項目ごとに整理して考察する方法、特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて考察する方法、対照的又は類似的な性格の二つの地域を比較して考察する方法があることを理解する。 東アジアについて、形式的な地域区分に基づき、地形と気候、中国の民族と人口、食生活と農業、工業化と経済発展、中国の動向と日本、朝鮮半島の成り立ち、韓国の産業、隣国との交流という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。			◎	○
		2節 東アジア			○		◎
三 学 期	11	3節 東南アジア	東南アジアについて、形式的な地域区分に基づき、自然、歴史と			◎	

二 学 期	10	4節 南アジア	文化・民族、農業と変化、ASEANと工業、ASEAN諸国の変化と諸課題という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。 南アジアについて、形式的な地域区分に基づき、地形と気候、歩みとヒンドゥー教、インドの農業と農村、工業・IT産業という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。		○	◎
		5節 西アジアと中央アジア	西アジアと中央アジアについて、乾燥帯が広がる自然環境に着目した地域区分に基づき、自然、イスラームの生活文化、交易と都市、資源と産業の面において、類似的な性格の二つの地域を比較して考察する。		○	◎
		6節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ	北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、中近東文化と中南アフリカ文化という文化に着目した地域区分に基づき、気候と植生、歴史的背景と文化、一次産品への依存、生活の変化と他地域との結びつきの面において、対照的な性格の二つの地域を比較して考察する。		○	◎
		7節 ヨーロッパ	ヨーロッパについて、形式的な地域区分に基づき、気候と大地、ヨーロッパの成り立ち、域内の結びつき、農業と共通農業政策、移り変わる工業、これからのヨーロッパという多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。		○	◎
		8節 ロシア	ロシアについて、亜寒帯が広がる自然環境に着目した地域区分に基づき、歴史と社会の変化、変化した産業、極東ロシアと日本の結びつきという多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。		○	◎
		9節 アングロアメリカ	アングロアメリカについて、ゲルマン文化という文化に着目した地域区分に基づき、自然環境、アメリカ合衆国の移民国家としての発展、人口と都市、農業、科学技術と産業、世界のなかのアメリカ合衆国、アメリカ合衆国との結びつきが強いカナダという多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。		○	◎
期	12	10節 ラテンアメリカ	ラテンアメリカについて、ローマン文化という文化に着目した地域区分に基づき、自然環境、文化、大土地所有制と農業の変化、工業化と生活の変化という特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて動態的に考察する、		○	◎
		11節 オセアニア	オセアニアについて、形式的な地域区分に基づき、一つの大陸と太平洋の島々、移民の歴史と多文化社会、強まるアジアとの結びつき、アジア諸国に輸出される農畜産物という特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて動態的に考察する。		○	◎
三 学 期	1	3章 現代世界と日本	現代世界における日本の特色について、多面的・多角的に考察し、日本が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土のあり方などについて展望する。	◎		○
評価の方法	定期考査の得点に平常点（課題・授業態度・小テスト等）を加味して100点満点で各学期とも算出する。学年末の成績は各学期の成績をもとに算出する。主に、①、②、③、④の4つの観点から総合的に判断する。					
備考						